

議 事 録

会議名	第2回尾鷲市総合計画審議会
日時	令和8年5月19日（火）19時00分～20時34分
開催場所	尾鷲市立中央公民館3階講堂
出席者 （敬称略）	会 長：岩崎恭典 副会長：岩澤宣之 委 員：相賀康史委員 今西義宜委員 内山洋輔委員 榎本富夫委員 大西正隆委員 奥村浩之委員 小倉裕司委員 川口真理子委員 北村清陽委員 北村豪委員 黒田恭委員 小西孝委員 小林利徳委員 塩津史子委員 世古美沙樹委員 辻本敏子委員 永原大輔委員 東郁夫委員 三鬼千陽委員 宮井敏行委員 宮本泰成委員 村田淳委 山本尚史委員 李家泓委員 事務局（市長公室）： 濱田 一多朗 柳瀬 誠 鳥飼 真宏 （株）ぎょうせい：高橋 岩崎
欠席者	石川郷子委員 北裏佳代委員 田中基康委員 土井弘人委員 日向風花委員 堀内達也委員 村瀬晃健委員 （7名）
会議次第	1 会長あいさつ 2 各種項目の進捗状況について （1）市長インタビューについて （2）各種ワークショップ開催結果について （中学生、高校生、若い世代・女性） （3）市民アンケート調査結果（速報値）について （4）人口ビジョン抜粋（人口推計）について （5）前期基本計画評価及び後期基本計画事業シートについて （6）部会運営の確認について （7）その他 3 その他
配付資料	「第2回尾鷲市総合計画審議会 資料」 アンケート調査結果（速報値）【別冊】

議事内容

事務局長

●開会＜１９：００＞

皆さん、こんばんは。

大変お忙しいなか、尾鷲市総合計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今から、第２回尾鷲市総合計画審議会を開会させていただきますが、４月からの組織・機構の見直し及び人事異動により課の体制も変わっておりますので、ご紹介とご挨拶をさせていただきます。

私は、４月の人事異動により、商工観光課長から市長公室長となりました、濱田です。よろしくお願いします。

まず、課名が昨年度までの「政策調整課」から「市長公室」に変更となりました。室の体制といたしましては、「おわせＳＥＡモデル・港湾振興担当」の調整監として、国土交通省中部地方整備局の後藤健太郎の後任として、同局から下田義治、新たに「人口減少対策担当」の課長補佐として北村栄世、係としては、昨年度までの「秘書・広報係」が２つに分かれて、「秘書係」と「広報係」に、あと「地域創生係」、「デジタル推進係」と当審議会の担当をさせていただきます「企画調整係」の２担当５係となります。

次に、担当となる企画調整係の職員も全て４月で異動となっております。新たに、市長公室主幹兼企画調整係長として柳瀬誠、係員として鳥飼真宏です。

【柳瀬誠・鳥飼真宏 一言あいさつ】

それでは、第２回尾鷲市総合計画審議会を開会させていただきます。

会議の進行上、携帯電話等はマナーモードの設定をよろしくお願いいたします。なお、本審議会につきましては、第１回の審議会にてご同意いただきましたとおり、すべて公開となっておりますので、よろしくお願いいたします。資料の確認をさせていただきます。まず、お手元に配布の資料をご覧ください。まず本日の資料としまして、「第２回尾鷲市総合計画審議会 資料」と表紙に書かれたもので、これは本日の資料をひとまとめにした、１頁から４４頁までの資料一式となっております。それと、別冊資料として「アンケート調査結果（速報値）」、以上、２つの資料となります。また、本日、受付時に「席次表」を配布させていただいております。資料については以上になりますが、全てお揃いでしょうか。資料の不足、落丁等ありませんか。もしございましたら、会議進行中でも結構ですので、その都度お知らせください。また、昨年１２月２日開催の第１回審議会において、第２回以降の審議会では、資料を事前配布とさせていただくと説明しておりましたが、庁内検討の進捗状況がかなり遅れていることが判明いたしましたので、誠に申し訳ありませんが、当日配布となりましたこととお詫び申し上げます。

本日の審議会ですが、石川郷子委員、北裏佳代委員、田中元康委員、土井弘人委員、日向風花委員、堀内達也委員、村瀬晃健委員より欠席のご連絡があり、計７名の方が欠席されています。尾鷲市総合計画審議会規則第６条第２項の規定により、会議は委員の半数以上が出席しなければ開くことができない

	いとされておりますが、本日、26名の委員の出席があり、過半数である17名以上の出席となっていますので、本審議会は成立していることを報告させていただきます。それでは、ここで司会の進行を岩崎会長にお願いさせていただきます。岩崎会長、よろしくお願いします。
議事	1 会長あいさつ
岩崎会長	それでは、会議を進行させていただきます岩崎です。これから報告がありますが、様々な形で市民の皆さんの意見を聴いて、総合計画のベースとなるアンケート調査も終わったところです。ただ、まだまだ材料の段階なので、これから計画として、皆さんがこれはやっていく必要があると思うことや、より重視すべきだと思うことについて、ウエイト付けをする素材が徐々に揃い始めた段階だと思っています。本来、この資料は事前に送ってもらって、読んでもらうべきもので、議論をしたかったんですが、作業が若干遅れていることもありまして、当日配付ということになりました。ワークショップのような形で議論したかったんですが、今日は講義形式で終わってしまうことになると思います。資料について、これから説明をいただくので、皆さんの忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、どうか、遠慮なさらずにご発言をお願いしたいと思います。総合計画の意義は改めて言うものではありませんが、尾鷲を今後どのようにしていくのか、そのための市民の皆さんの意思を表明するのが総合計画だと思っています。その参考になる資料を今日は提議させていただいています。
宮井委員質問	【（審議会全体に対する）スケジュールの遅れについて】 今回、公募で応募させていただいた。前回会議で2回目は4月上旬ということだった。私が危惧しているのが、半年近く会議を開いていなくて、十分な審議がなされるのかということ。時間の遅れで追認ということにならないようにしてほしいのが1点。2点目が、送られてきた案内書には遅れたことについてのお詫びの文書をつけないといけなと思う。3点目、資料が当日配付になって、審議するには事前に資料を送らないといけなと思う。案内文書が届いてから2週間以上あったので、その間に送るとかしなないといけなかったのではないかな。
事務局長回答	今回の総合計画策定は2か年事業としてやっています。昨年度1回しか会議が開催されず、進捗の遅れについては4月の異動の際に把握しています。課内の体制が変わり、担当者が入れ替わったこともあり、年度当初引継ぎ等が発生し会議開催がずれ込みました。開催通知について、お詫びの部分がついていなかった点はお詫びさせていただきます。資料の送付については直前まで調整しており、昨日届いた資料もあります。次回からは早めにお届けし、見ていただいてから議論できるようにさせていただきます。
岩崎会長	私も会長として、強く要望させていただきます。今日は資料についての説明が中心になってしまうと思いますので、ご理解いただきたいと思います。では、事項書に沿って進めさせていただきます。各種項目の進捗について説明させていただきますが、まずは市長インタビューについてお願いします。

議事	2 各種項目の進捗状況について
事務局	(1) 市長インタビューについて 資料1「第7次尾鷲市総合計画後期基本計画策定に係る市長インタビュー」をご覧ください。令和8年1月28日、市長の考え方を計画に反映させるためインタビューを実施し、令和8年度の4月に入ってから、その内容を基に事務局で再度市長と打合せを行い、内容をまとめたものです。 基本的なまちづくりコンセプトについてから、産業振興、観光、防災、教育に関する将来展望、医療福祉、行政のデジタル化、中学生との懇談会までの8項目で聴き取りを行いました。 1のまちづくりのコンセプトについては、2022年度から2031年度までの10年間のまちの将来像である「住みたいまち 住み続けたいまち おわせ」を、まちづくりのコンセプト（基本的な考え方）として、しっかりと後期基本計画を定めていくという方向性が示され、2の産業振興では一次産業とふるさと納税の振興、3の観光では、世界遺産である熊野古道での観光客誘致や、本市4大イベントである「おわせ港まつり」、「全国尾鷲節コンクール」、「おわせ海・山ツーデーウォーク」、「尾鷲磯釣り大会」をはじめとする各種イベント開催の強化、4の防災では市民の命を守るための津波避難タワー建設や体育文化会館・中央公民館の耐震化整備、5の教育では、構想段階ではありますが、独自の教育理念やカリキュラムを持つ学校であるオルタナティブスクールの開校など、特色ある教育施策の展開に触れています。 6の医療福祉では、尾鷲総合病院、特に救急医療体制の維持する地域医療の確保に触れ、7の行政のデジタル化では、デジタル化を推進することによる市民サービスの向上と業務の効率化、8の中学生との懇談会では、毎年実施している中学生との懇談会だけでなく、婦人の会や老人クラブ連合会など、幅広く市民の皆さまの意見を聴く場を重ね、市政を進めていきたいという考えが示されています。 9のその他として、地域創生2.0にはこれからの地域創生において住民のウェルビーイング向上が重要なポイントとして挙げられていることから、ウェルビーイング、つまりは、心身ともに満たされた状態を表す概念ですが、それについての考えも伺いました。 第1回審議会での市長あいさつでも触れられていましたが、市長インタビューの内容を踏まえ、ウェルビーイングなどの新しい社会動向も取り入れ、計画の「実現性」と「実効性」の確保をキーワードとして、より多くの市民の皆さまから意見をいただきながら、分かりやすい内容の計画を策定したいと考えております。以上が市長インタビューについての報告になります。
岩崎会長	市長インタビューについての報告がありましたが、ご質問等ございますか。 (委員からの質問なし)

	市長の意向を十分踏まえて、計画の中の重要項目として市長が提案するものは大切にしていける必要があると思います。では、次にいろんな形のワークショップをこれまでやっていただいていますので、各種ワークショップの開催結果について事務局から説明をお願いします。
事務局	（２）各種ワークショップ開催結果について 資料２「中学生ワークショップ実施結果について」をご覧ください。 令和８年１月２８日に尾鷲市立尾鷲中学校におきまして、尾鷲中学校生徒４名、輪内中学校４名の計８名を対象として、若い世代の中学生が持つ尾鷲市の将来イメージや尾鷲市への期待を話し合ってもらい、尾鷲市に対する愛着を高め、まちづくりへの参画意識を高めてもらうことを目的にワークショップを実施しました。オリエンテーションと、総合計画についての簡単な説明の後、「尾鷲ヒノキを活用して尾鷲市を盛り上げる」というテーマでワークを実施しました。ワーク１、「ヒノキの一生のものがたりをつくろう」では、スライドで尾鷲ヒノキについて学んだ後、各学校で作業し、発表してもらいました。ワーク２の「尾鷲ヒノキや自然を、自分の住む地域・尾鷲市をどんなふう大切にするか」では各自から意見を出してもらい、林業や伝統を守りたい、地産地消、尾鷲ヒノキをＰＲしたい、植樹などで「自分の樹」を持てるようにしたい、ごみのポイ捨てをしない、などの意見が出ていました。総括として、中学生らしく、教育や学校の机に尾鷲ヒノキを使うアイデアを出してもらい、その中で尾鷲ヒノキが多く関係者によって大切に守られ、活用されていることに改めて気づき、地域の特色を活かしていくことが自分たちの暮らしや将来に関わってくることについて、意識を高めることができました。以上が、中学生ワークショップ実施結果についての報告になります。 続いて、資料３「高校生ワークショップ実施結果について」をご覧ください。 令和８年３月６日、三重県立尾鷲高等学校におきまして、２年生の生徒３名を対象として、同校で毎年開催している、地域課題の解決を考える活動である「まちいく」において最終発表を行った内容について、さらに磨きをかけていくことで、具体的な取組として実現させていくことを目指すとともに、総合計画の後期計画策定における基礎資料とすることを目的にワークショップを実施しました。「空き家を活用して尾鷲市が明るくなるには」と、「ごみ問題について」という課題を掲げて解決策を考案された生徒に参加いただきました。「空き家を活用して尾鷲市が明るくなるには」というテーマへのアウトプットでは、主な解決策として「展示会で見た工芸品を実際に体験できる場所を提供する」「安く貸した宿に来てくれた外国人に英会話教室のようなものを開いてもらう」「都会に住んでいる人たちに向けて田舎暮らしを体験できる場を提供する」などの意見が提案されました。 また、「ごみ問題について」では、主な解決策として「スポごみを実施する」という意見が提案されました。総括として、今回のワークショップでは、課題の解決を阻む要因について明らかにしたうえで、その克服策を考えるという、「まちいく」の活動で作成されたアウトプットを補完する位置づけで進められてきました。課題「空き家を活用して尾鷲市が明るくなるには」にお

いては、空き家活用のためには、人の流れをつくる（いわゆる関係人口の増加）が深く関わっており、そのためには、非日常的な体験、異質な体験を通じた観光、更には滞在型観光の開発が鍵を握ることが確認されました。また、取組を行う体制についても、互いがWin-Winな関係となる仕組みと併せて構築することが求められてくる点についても目が向けられました。課題「ごみ問題について」においては、スポごみの展開がより効果的になるように、話題性の追求と活動に係る情報の拡散による認知度向上が有効であることが確認されました。また、スポごみを開催することで、地域に落ちているごみを減らすのみならず、ごみのポイ捨て自体を減らすこと（意識啓発）にもつながるようにするという重要な視点にも目が向けられていきました。更には、仲間づくりを行うことで組織的な取組として育てていくことの必要性も確認されました。以上が、高校生ワークショップ実施結果についての報告になります。

続いて、資料4「若い世代・女性ワークショップ実施結果について」をご覧ください。

令和8年3月6日、尾鷲市役所におきまして、市内で働く方々6名を対象とし、日頃市内で生活を送る中での困りごと、不満について洗い出しつつ、まちの将来像である「住みたいまち 住み続けたいまち おわせ」を実現するための取組についてアイデア創出を行うことで、今後における尾鷲市のまちづくりにおいて有効となりうるポイントを抽出すること、ひいては、総合計画の後期計画策定における基礎資料とすることを目的にワークショップを実施しました。総括として、今回のワークショップでは、日頃の生活における困りごとや不満を踏まえつつ、尾鷲市の将来像の実現に向けた取組という観点から、今後のまちづくりにおいて有効となりうるポイントが抽出されました。地域内に目を向けた内容としては、生活の利便性や移動のしやすさなど、不便さを感じにくい生活に関する意見が多く見られました。また、潤いのある生活の実現という視点も示されました。さらに、安全・安心の確保や医療の充実、子育て支援など、不安なく暮らせる環境づくりの重要性も指摘されました。地域外に目を向けた内容としては、観光振興に関する意見が多く挙げられました。その方向性としては、地域資源を活かした「体験型」や「滞在型」が重要なキーワードとして捉えられます。加えて、「映え」といった視覚的魅力的発信も、現代においては重要なポイントであることが確認されました。地域内外の双方に関わる内容としては、人と人との交流機会を創出する仕組みづくりの重要性が挙げられました。また、長く現役として活躍できる地域環境の整備の必要性についても意見が出されました。そのためには、地域内における雇用の創出・産業の活性化を図るとともに、テレワークやワーケーションといった多様な働き方を活かし、地域外からの滞在・関係人口の創出を促進することが重要であるという構図が見えてきます。これにより、地域外の方にとって複数拠点での生活を通じた視野の拡大や人的ネットワークの拡張が期待されます。

以上が、若い世代・女性ワークショップ実施結果についての報告になります。

岩崎会長	各種ワークショップについての報告でした。ご質問等ございますか。
宮井委員質問	中学生や高校生、若い方の意見を幅広く聴くのは大事だと思います。尾鷲の厳しい財政状況や人口減少に直面した疲弊した状況の中、どこを集中的に、限られた資源を生かしていくかが重要です。前回の会議でも出ていましたが、中高生の議論がふわっとしたものにならないかという意見があり、私も同感なんです。中高生が尾鷲市に夢を持つような施策を考えていくべきだと考えます。そのため、力を入れていくべきは教育ではないかと考えます。
岩崎会長	中学生、高校生、若い方がどんなふうに尾鷲のことを考えているか、どうしていきたくいかにについて、若い方が残って住み続けてもらうために、どんなことができるのかを考えて、総合計画に反映させていく必要があると思っています。特に、尾鷲高校における「まちいく」という地域を素材にしたプログラムは過去からやっていて、尾鷲高校に限らず、高校の教育内容はがらっと変わっています。探求という、課題を設定し、課題を解決するためにどうすればいいのかを考える教育が全国的に展開されています。その中で、わが町の課題を発見し、その解決のためどうやって動けばいいかということ、尾鷲高校の場合「まちいく」でかなり前から積み重ねてやっていますので、そういった蓄積を踏まえた尾鷲高校の生徒の提言は、それなりに重みはあると思っています。若い方のアウトプットも、いろいろと検討しなければならない素材を提供してくれたと思っています。冒頭で申し上げたとおり、これにウエイトをどう付けて、そして、今後の尾鷲のためにやっていかなければいけないことをご審議いただく素材として活用していきたいと考えているところです。
李委員質問	中学生、高校生、若い世代から意見を聴くことはいいことだと思いますが、なぜ高校生ワークショップの課題をごみ問題をとしたんですか。 それと、若い世代のワークショップ参加者6人については、市の職員と地域おこし協力隊だが、これは若い世代の代表と言えるのでしょうか。
事務局回答	高校生ワークショップのテーマの設定については、「まちいく」の中で、尾鷲の子どもたちが発表した課題の中からワークショップのテーマに選定いたしました。 若い世代のワークショップのメンバーについては、実際に公募をかけましたが、なかなか集まらなかったため、事務局で選出を行った経緯があります。代表と言えるのか、とのご指摘でありましたが、そのような経緯がありましたことについてご理解いただきたいと思います。
事務局長回答	まちいくの中でなぜこの2テーマを取り上げたのか、若い世代・女性ワークショップのメンバーについても、疑問に思うところはありません。これだけでいいのかという議論はあろうかと思いますが、1つの結果としてご理解いただきたいと思います。
世古委員質問	若い世代・女性ワークショップの件ですが、参加者を1人紹介させてもらったのに、この結果では残念だったと思います。本当に集めてやりたいのであれば、職員が足を運んで声をかけて、若い世代の人たちに参加してもらうような努力をしたのかなと思いました。やるのであれば、もうちょっとしっか

	りするべきだったというのが正直な感想です。
事務局長回答	尾鷲市の立場として、公募で若い世代・女性や、中学生、高校生も含め、より多くの人から意見を聴くべきだと思います。委員のおっしゃるように、特に大きな声かけをしていたわけではなかったのではないかと思いますので、その点は不十分で反省すべきだと思います。
岩崎会長	今後何らかの形で市民の皆さんの参加を募るときには、丹念にお声がけをすることが必要だと思います。では、ワークショップの報告については以上とさせていただきます、次の項目に入らせてもらいます。市民アンケートの速報結果についてご説明をお願いします。
事務局	（３）市民アンケート調査結果（速報値）について 別冊資料の「アンケート調査結果（速報値）」をご覧ください。令和８年２月下旬から３月２６日までの期間で、無作為に抽出した１８歳以上８０歳以下の市民１，０００人を対象に「尾鷲市まちづくりに関するアンケート」を実施しました。有効な回答は郵送分が３２４件、Ｗｅｂでの回答が１００件、合計４２４件の回答をいただきました。回答内容については現在詳細を集計中で、現時点で委員の皆さまにお示しできる情報としてはここまでとなりますが、内容がまとまり次第、あらためてご説明させていただく予定です。本日の調査結果の内容につきましては、委託事業者の（株）ぎょうせいの高橋研究員から説明いただきます。
事務局 【（株）ぎょうせい】	それではご報告申し上げます。皆さまのお手元にございます「アンケート調査結果（速報値）」について、かいつまんでご紹介させていただきます。特にご覧いただきたいところですが、別冊資料１０ページからの暮らしの満足度と今後の重要度に関して、様々な項目において満足であるとか、将来重要であるという２つの軸でアンケートを取らせてもらっています。基本的には、満足か不満かという「普通」という回答が多い傾向です。中でも、「満足」が多い、逆に「不満」が多い回答があったものに関しては、これから総合計画を策定していく中で、丁寧に見ていきたいと考えています。皆さんご覧いただきながら、特にこの項目に対してご質問があれば回答させていただきます。今回の資料は単純集計で、４２４名の方からどういう回答があったかのみの集計になりますが、この後、最終報告に向けて「クロス集計」と言いまして、年齢、性別等での集計を加味して最終の報告にまとめていきたいと考えています。アンケートに関しては私からは以上です。
事務局長	今の説明だけでは分からないかと思います。この資料が届いたのが昨日でして、大変申し訳ございません。せっかくなので、私から何点か皆さんと共有させていただきます。まず、２ページ、問７です。「あなたはこれからはずっと尾鷲市に住み続けたいとお考えですか。」の回答ですが、５６％の方が「ずっと住み続けたい」と回答いただいているものの、１００名近くの方が「しばらくの間住み続けたい」から「すぐにでも引っ越したい」という回答をされているのが尾鷲市の現状かなと思います。３ページ、問９「市外に引っ越したい理由は何ですか。」では、働く場所が少ない、娯楽・レクリエーション施設が少ない、各種福祉政策が充実していないというのが、引っ越したい

	という理由につながっているのかなと思います。問１０「尾鷲全体をどのようにお考えですか。」という中で、「どちらかといえば住みにくいまちである」「住みにくいまちである」という方がおよそ９０人、約２０％の方が住みにくいと回答いただいています。住みにくいと思っている理由が問１１の中で、老後の不安や健康面での不安、地震など災害に対する不安など、高齢化が進む中での不安要素になっているのかなと見ています。それらがある中で、４ページ問１２「将来どのようなイメージのまちになってほしいと思いますか。」に対しては、地震や風水害での不安なく生活できるまち、海や川など自然がたくさん残っている環境、保健・医療・福祉施設が充実して元気に暮らせるまちになってほしいという意見があり、問１３の「市が積極的に進めるべき取り組みについて」では風水害に対する防災対策、福祉施策、子育て・高齢者の生活支援、雇用の確保が重要な要素であると、アンケート結果から読み取れると思います。６ページ、市からの積極的な情報提供をもっと進めるべきだとか、職員の意識改革、市役所の体制整備、市民が活動しやすいルールづくりなどをすべきという意見が、市民との協働において、これからの尾鷲市をつくっていくうえで重要だと出ております。補足の意味を込めて、私から述べさせていただきました。皆さまにおかれましても、今後の計画策定にあたって、各課から出てくる施策が本当にこれらを充実させるものなのかという視点で見ていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。
岩崎会長	ありがとうございます。これだけのボリュームを今日初めて見て、何かコメントをと言われても難しいかと思いますが、何かご意見があればお願いします。
世古委員質問	問２や問７の回答から想像すると、ずっと住み続けたいと回答した数と、６０代以上の回答者の人数が同じくらいなので、若い世代や子育て世帯にとっては住み続けたくないということになるかもしれないので、そこは考えていくべきかなと思います。満足度と重要度の回答で、満足度は普通だけど重要度が高くなっている回答については、今より満足度を上げていかないといけないという課題として出ているのかなと思いました。
事務局回答 【(株)ぎょうせい】	ご指摘ありがとうございます。６０代以上の回答者数と、住み続けたいと回答した数が同じくらいというご意見でした。クロス集計という手法がございまして、年代ごとにどういう回答だったのか、精査しております。その結果が出たところで共有させていただきたく思います。満足度と重要度に関しては、満足度は現状の満足度です。重要度は、これからの施策をどう考えますかということで、これからの重要度になります。満足度は高いけれど重要度はどう出ているかということも含めて、分析して皆さんと共有したいと思います。
事務局長回答	世古委員のおっしゃる部分もあるかと思います。高校生の多数が市外に出るという現状で、若い世代が生涯住むとなると、教育や保育、医療、そして雇用の環境が整わないと厳しいと思います。

宮井委員質問	市民アンケートについては、資料として重要だと思います。回答者が偏っているのではないかと思います。回答者は、時間的に余裕のある者が高齢者などが中心になりがちで、子育て世代や働いている人が忙しくて、回答できていないと思うので、本質的な意見を取り入れられていないと感じます。
事務局長回答	令和6年度のアンケートでは346名の方からご回答いただいて、今回は424名と回答率が上がっています。委員の言うように、アンケートの取り方によって回答に偏りが見えるということは、市長・副市長も含め、同意見でした。経年変化を見るため、同じ設問を設けたりして比較対象としていますが、回答する方によっては偏りが出てしまうことがあります。やむを得ないと考えています。アンケートの対象者についてはアンケートの手法に則った形で「無作為抽出」を行っており、適切に進められていますが、回答の錯誤差、標本誤差を下げるために、回答率が上がる工夫をしていく必要があると認識しています。
岩崎会長	時間があってアンケートに回答できる人もいれば忙しくて回答する時間がない人もいて、質問によって差が出てくる場合がありますが、経年的に見た場合、一定の指標になると思います。これからクロス集計を行っていく中で、高齢者の尾鷲に対する将来像と、若年層の意向で差が出てくる可能性がありますから、どちらを総合計画として重視していくかを議論する必要がありますし、高齢者の数が多いからといって、高齢者の意向を尊重しすぎるのも課題となりますので、そのあたりは改めて議論していきたいと思います。地域・地区別でも何らかの形で人口に比例している必要があるかと思いますが、1ページのとおり、須賀利が回答0なので、須賀利の意見を聴く必要はないですか。
事務局回答	アンケート送付の状況を見る限り、18歳から80歳までの年齢別比率、地区別人口割合に応じて各地区に送付させてもらっていますので、ご回答いただけなかったということになりますので、特定地区のみ再度ということはありません。
李委員質問	尾鷲地区内の回答が8割超。輪内地区の意見が見えにくいのではないのでしょうか。それと、いつどうやってアンケートを実施したか、過去のデータも比較して議論したいです。今回のアンケートの調査票を示してほしい。それと、満足度と重要度について、「満足～不満足」の回答項目がわかりにくいように思います。
事務局長回答	今回のアンケート調査票の内容については、第1回審議会にて議論が行われており、様式や内容も示し、1,000名抽出してアンケートを取りました。輪内地区が少ないというご意見ですが、人口比に応じて抽出人数を算出し、送付するというアンケートのルールがあり、その中で標本誤差を減らすため回収率を上げるということになりますので、アンケートの手法については問題なかったと考えています。項目については、改善すべき点もあるかもしれませんが、基本的には経年比較するため同じ設問を設けています。現在、業者のほうでクロス集計など行っていますので、アンケート結果については出来次第送らせていただきます。

岩崎会長	ありがとうございます。いずれにせよ、もう少しアンケート調査の分析をしてもらわないといけません。前回の資料をお持ちの方は、アンケートの様式がありますので、最後の部分に満足度と重要度の散布図のひな型があります。これは、満足度が高く、しかも重要度が高いものはこれからもやっていけばいいし、重要度が高いけれど満足度が低いものは、これからの5年間でもっとやっていかないといけないという分布なので、アンケート調査を基にやっていくことになります。これをご参考にしていただきながら、これからアンケート調査をどのように活用していくのかをご覧くださいと思います。それと、満足度と重要度の比較データの解釈について、重要度は「満足」「どちらかといえば満足」ではなく、「重要」「どちらかといえば重要」の誤りではないかと思うので、報告書では直して公開してください。
村田委員質問	問26、「広報紙やホームページなどによる情報提供の機会の充実」で回答者140人、33%と高い数字なんですが、どちらかという受け身のものです。上から2番目の「市民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会の充実」も同じくらいの回答で、こういうものに参加したいという方が潜在的にいるのかなというところで、そういった方への掘り起こしもいろんな方法でやっていくことが必要かと思いました。問27、「市職員の意識改革や能力開発のための研修を行う」や問17の「職員の意識改革」というところで、市の職員へのメッセージもあるのかなと感じています。
事務局長回答	委員の言われる、市民説明会などの対話の機会については、市長も市民懇談会を開いたり、いろんな対話の機会を設けさせてもらっています。市としても出前講座などいろんな機会を設けていますので、その辺りをご利用いただきたいと思います。特に、アンケートでの地域に対する愛着では、70.5%の方が尾鷲の地域に愛着を持っています。若者が活躍しやすい雰囲気では61.5%が若者が活躍しにくいとご回答いただいています。我々が反省すべき点は、総合計画を知っているかという設問に対し、83.4%があまり知らない・知らないという回答でした。市かの情報発信や広報について反省すべき点はしっかりと反省して見直ししながら、皆さんに知っていただくような努力は必要だと思っています。
岩崎会長	ありがとうございます。これは、今日初見で意見を出せというのは難しいものがあります。ご指摘いただいたように、クロス集計しないと出せないものが多々あると思いますので、速報値ということを踏まえてご意見があれば、担当課に言ってもらえればと思います。アンケートについてはこれくらいにしたいと思います。次に、人口ビジョンについて事務局から説明をお願いします。
事務局 【(株)ぎょうせい】	(4) 人口ビジョン抜粋(人口推計)について 人口ビジョンは、今回、総合計画後期基本計画と合わせて、まち・人・仕事創生総合戦略も改定するという事で、総合戦略に人口ビジョンがセットして作られる形になっています。人口ビジョンは、現状の人口から将来に向けて人口がどのように変化するかをいくつかのパターンで推計していくものになっています。まだ、人口ビジョンそのものが出来上がっているわけで

	はございません。今回の資料は、人口推計検討案と書かせていただきますが、この段階で皆さんと共有しておきたいということで出させてもらっているということでご理解ください。具体的に何を共有したいかといいますと、総人口の推移と今後の人口の動向が、およそ今の人口をベースにしながら、生まれる子どもの数と亡くなる方の自然増減の割合の傾向がこのまま続くかどうか、それと、転出する人と転入する人の社会増減がこのまま続くかどうかということをシミュレーションしていくと、2070年後までの推移が出ています。将来推計について、非常に厳しい状況であるということをご理解いただきながら、お伝えしたいのは、36ページで、いかに人口が減るということを受け止めつつ、その影響を少なくするが出来るか、ということ言えば、先程申し上げましたとおり、生まれる子どもを増やしていく少子化対策、若者が尾鷲市に残ったり、帰ってくるような施策を総合してやっていかなければいけないのかなと思います。尾鷲市の将来を考えたときに、若い方がいかに残るか、出ていった方もUターンで戻ってくることがあるか、その人の子どもが尾鷲市で大きくなって、子どもを育てる世帯になっていくといった循環が続いていく中で、今の世の中の趨勢として、人口が増えるというのは難しいですが、今挙げているシミュレーションのパターンから少しでも上振れるようになるのではないかと考えまして、不完全ではございますが、資料として提出させていただいたので、是非、共有させていただきたいと思います。私からの説明は以上です。
事務局長	今回の人口推計パターンに用いられる数字は、令和7年国勢調査の数字になります。現在集計中で、5月29日に数字が出て初めて作られるものなので、社会増減、人口流出の抑制と、Uターンを増加させるような社会増の取組により、結果的に出産が増え、出生数も上がることになります。単純に合計特殊出生率を、国が示す人口減がなくなる2.07まで上げる取組ではなく、人口流出を止めるような取組をしつつ、子育てしやすい環境づくりを進める両面で、人口減を緩やかにしていくような取組をしていかなければいけないという方向性はここにも示されていますので、資料の数字についてはまだ未確定の数字になりますので、そのようにご理解をお願いします。
岩崎会長	ということで、人口推計のデータについてはもう一度考え直さないといけないということで、あくまで一例ということです。最後のほうの、人口の減り方をどのようにして抑制していくかについては、人口ビジョンの基本的な考え方として今後も踏襲していきたいということでした。人口ビジョンについて、何かご質問等ございますか。今回の資料の数字については、あくまで仮の推計ということで、数字についての取り扱いは注意していただきますよう、念のため申し上げます。 (委員からの質問なし) それでは、次に前期基本計画評価及び後期基本計画事業シートについての説明をお願いします。

事務局	（５）前期基本計画評価及び後期基本計画事業シートについて 資料６「前期基本計画評価及び後期基本計画事業シート」をご覧ください。Ａ３両面の資料となります。「１－１子育て」から「５－５協働・平等」まで、２８の分野別計画について、計画期間における評価・振り返りと、後期基本計画に反映させる内容の作成作業を各課に依頼しているところです。この資料について、まず、シートの左側が現行計画の記載内容となっており、現状と課題及び施策分野の目指す姿、その下に各計画における主要施策が記載されています。裏面に主要事業や主な指標についての記載内容と続いていきます。シート中央で現行計画期間における評価・振り返りをしてもらい、主要施策の進捗度や主要事業の数値目標達成度、主な指標の計画期間中の実績数値などを記載し、現計画期間の振り返りを行ったのち、シート右側に後期基本計画として記載する内容を作成していきます。５月末までに各課から提出いただき、事務局にて取りまとめを行って基本計画（案）としてお示しし、各部会において審議していただく予定となっています。前期基本計画評価及び後期基本計画事業シートについての説明は以上となります。
岩崎会長	ありがとうございます。これが、今後我々が部会で議論をしていくときの素材になる資料で、各課で作成してもらっている段階ということですが、このことについて何かご質問等ございますか。 （委員からの質問なし） では、この資料が出てきたら、皆さん部会に分かれて議論していただくこととなりますが、部会運営の確認について、説明をお願いします。
事務局	（６）部会運営の確認について 資料７「部会別委員名簿」をご覧ください。昨年１２月２日の第１回審議会で配付しました「第７次尾鷲市総合計画審議部会別委員名簿（案）」について、特にご意見等ございませんでしたので、この部会メンバーで確定とさせていただきます。部会運営につきましては、先ほどの説明でも少し触れましたが、６月中には各課から提出のあった内容を基本計画（案）としてまとめ、７月初旬に審議会・部会を開催したいと考えています。部会運営についての説明は以上となります。
岩崎会長	部会運営について、よろしいでしょうか。 （委員からの質問なし） では、次回はこういう形でこの部会に分かれて議論していただくことにしたいと思います。次に、その他について説明をお願いします。
事務局	（７）その他 資料８から１０についてご説明いたします。第１回審議会資料で既にお配りしている資料になりますが、令和８年４月１日より組織改正がございまして、当課については「政策調整課」から「市長公室」に課名が変更となり、そのほか

	の部署も課名変更がございました。このことに伴い、「尾鷲市総合計画審議会規則」第8条の「政策調整課」を「市長公室」に一部改正し、「第7次尾鷲市総合計画、尾鷲市国土強靱化地域計画、尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会設置要綱」第7条の「政策調整課」を「市長公室」に、別表第1の各課の名称を一部改正し、「第7次尾鷲市総合計画、尾鷲市国土強靱化地域計画、尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定検討WG設置要綱」第3条及び第5条の「政策調整課長」を「市長公室長」に、第6条の「政策調整課」を「市長公室」へと、それぞれ一部改正を行いましたので、改正後の規則等を添付させていただいております。改正部分は赤字で示させていただいております。説明は以上となります。
岩崎会長	事務局から説明がありましたが、基本的には「政策調整課」が「市長公室」に変更するなどで、各課の名称が変わったことによる規則等の改正であります。よろしいでしょうか。 (委員からの質問なし) それでは、本日ご用意した資料の説明が終わりましたが、事務局のほうからその他、何かございますか。
議事	3 その他
事務局長	先ほど担当からも説明がありましたが、現在、様式シートを作成し、各課で振り返り等の作業を進めています。6月中に基本計画(案)の作成を進め、部会開催も含めた具体的な議論をさせていただきたいと考えています。事務局提案ですが、次回(第3回総合計画審議会、全体会・部会)は7月13日(月)の開催を考えております。正式な案内通知は別途送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。
岩崎会長	次回は7月13日(月)19時からということです。ご都合のある方もいらっしゃると思いますが、ご出席いただきますようお願いいたします。今度は各課が出してきた前期の振り返りと、後期の計画(案)、それにアンケート調査などを踏まえながら、強弱をつけていく作業をそれぞれの部会でやっていくということを中心に運営していきたいと思います。それでは、今日の第2回総合計画審議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。
閉会	